

2012. 11. 30

No.174

編集・発行人 樋口みな子

E-mail minginga@agate.plala.or.jp
URL <http://www13.plala.or.jp/minginga/>
郵便振替「銀河通信」
02740-7-56535
(郵送6号分1,000円)



野幌から冬だより



11. 24野幌森林公園はすっかり冬のたたずまい

今年も残すところ1ヶ月になりました。例年になく雪の到来が遅かったですが、野幌はすっかり冬景色に変わりました。

夏山の装備をかたづけて、先日冬山の準備をしましたが、何度行けるでしょう

集したのは、初めてのことだと思います。

夏山に登る機会が今年は激減しました。青い空と美味しい空気を味わいたいから、大好きな山を守るために私はこの運動で頑張っているんだと思った時から山に行けないことを

嘆かなくなりました。未知の山に登りたいとか、より厳しい山に挑戦したいという気持ちはありますが今は「子どもたちに原発のない未来を」引き継ぎたいと願って、市民運動を続けています。福島県出身の田部井淳子さんは、被災者と一緒に山に登っていますね。ふるさとの山を大事にしたい、被災者に山の素晴らしさを知って元気になってもらいたいという気持ちが伝わってきて共感します。

時々、山の仲間が「山へ行こう」と声をかけてくれるのがとても嬉しい。来年は、廃炉の会のメンバーの理解を得ながら、山にもたくさん登りたいと思っています。

パソコンの前でメールを打っていると、庭に野鳥が集う声や仕草に心とみます。つがいの雀がバードテーブルで仲良くエサをついばむ姿が愛らしい。大きなヒヨドリが交代で場所を奪います。リズムカルなドラミングを聴かせるアカゲラ君の訪問がある日は心も弾みます。(写真)

今年1年間、ご愛読ありがとうございました。山仲間の友人が、銀河通信のHPを作ってくれました。過去の通信も入っていますのでご覧下さい。来年もよろしくお願ひ致します。

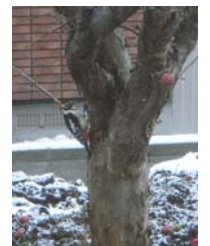


10. 27 1ヶ月前の野幌森林公園は紅葉が見事でした。



11. 24 我が家のナナカマド

た。ありがとうございました。白老や、蘭越など泊原発の危険性について講演される小野有五さんの応援にも行きました。泊に近い場所の講演会では、切実に受け止められて、真実を伝えていくことの大切さを実感しました。1万人さようなら原発集会や、道庁前抗議行動にも参加しています。いろんな考え方や立場を超えて、原発ゼロへの思いで結



11. 24時々我が家に来るアカゲラ

ドイツはどのようにして脱原発を実現したのか？



ミランダ・シュラーズさん

泊原発の廃炉をめざす会は、11月17日（土）に二次提訴記念講演会を開きました。ベルリン自由大学環境政策研究所の所長であるミランダ・シュラーズさんや、北海道大学の教授で環境経済学が専門の吉田文和さんが

講演しました。私は事務局スタッフでほとんど講演を聴けませんでした。ユーストリームやDVDで拝聴してまとめました。

ドイツは3,11福島の原発事故後の5月に脱原発に舵を切りました。メルケル首相はかつては原子力推進派でしたが、フクシマの事故を重大と受け止め、原発問題倫理委員会を発足させました。ミランダさんも委員の一人ですが、ユニークなのは、原発に関与している人が一人も入っていないこと。神父さんと牧師、消費者問題を研究している人、哲学者、企業人など17人で構成されました。ユニークなのは、どのようなエネルギーが提供されるべきかは、電力会社ではなく、社会が決めるべきだという考え方です。

ミランダさんは、いきなり脱原発になったのではない、ドイツの歴史を語りました。30年も前から脱原発の議論があったこと。1983年に緑の党が議席を獲得。2002年には脱原発法案が出来ました。NGOの影響力も見逃せません。反原発運動から生まれたNGOの規模も日本とは比べものにならない程大きい。情報を発信したり、自ら調査活動をしたりするノウハウが蓄積されていること。再生可能エネルギーを推進する法律も制定されました。

経済界も脱原発政策をビジネスチャンスと受け止め、自然エネルギーへの投資で38万人の雇用が生まれたと言います。特に小さな地域の動きが面白い。自分の街がどうなって欲しいのか、持続可能な街づくりの取り組みが進んでいる。20年前から自然エネルギーに取り組んできたドイツは、今やエネルギーの輸出が世界一になったと語りました。

北海道は自然エネルギーが豊富だから、日本の将来に大きな役割を果たせると思う。日本は被爆国ですが、今回の事故で海を汚し、加害者になったのです。日本がどういう社会を作りたいのかビジョンが必要だと思うと締めくくりました。

ドイツ倫理委員会の報告書を翻訳もされた吉田文和さんは、福島原発事故の教訓を生かしたエネルギー活用策を提言しました。

ドイツを始めとするヨーロッパ各地の電力事情を視察された吉田さんは、「スイスが学んだ39の福島の教訓」を紹介。学習する組織を発展させない欠陥や意志決定の欠陥などをあげています。

北海道の電力は40%が原発で賄われてきたこと。

新しいマンションはオール電化が促進されたことなどもあり泊原発稼働後電力消費が1.5倍に増えたと図で示しました。

またウィーンには街の真ん中にゴミの焼却炉があることを

紹介。そこから出る廃熱を利用して病院などに電力を供給し、原発の依存度を減らす取り組みが実施されていること。大気汚染を減らす効果もあると語りました。

道内ではすでにいくつかの街で、自然エネルギーの取り組みが始まっています。浜中農協の太陽パネルは105戸に電力を供給。鹿追町ではバイオガスプラントが実施されている。宗谷岬は日本最大の風力発電があり稚内の80%の電力が賄われている。津別では木材を加工して発電。300人の雇用を生んだと語り、ドイツやデンマークのように再生可能エネルギーへの転換で経済活性化の活路



吉田文和さん



司会の常田益代さん
(原告団副団長)

を見いだすべきと結びました。

お二人のお話を聴き、原発がなくても、再生可能エネルギーの転換で十分にやっていけること、日本の技術力を是非発揮してもらいたいと思いました。とても勇気づけられました。

二次原告になった方たちの発言も深く、実感のこもったものでした。林恭子さん（写真）は5人のお子さんを持つ母です。この夏、節電に



取り組み、電力を20%削減出来たこと、原告費用（一人1万円）の6万円の支出に悩んだけど、電気の不買運動をして、子どもたちのために原発のない将来を買うんだと思って原告になる決意をしたと語り、会場は拍手で包まれました。

浅川身奈栄さんは、夫が薬害で苦しんだ経験から、福島のような人災はあってはならない。福島から避難してきた障害者が北海道に来てすぐに亡くなったこと。病気や障害のある人も安心して暮

らせるように原発をなくしましょうと語りました。

深町宏美さんは、自然は子ども達の感受性を育てる大事なもの。自然の中でおもいっきり遊べる北海道を守るために原告になりましたと決意を語りました。

参加者は230人。会場をいっぱいに来なかったのは残念でしたがとても元気が出る講演会でした。私も含めて事務局スタッフは、受付や本の販売、入会者の受付等で講演はあまり聴けなかったのが残念です。交代でも聴けるように工夫したいと思いました。また当日発売になった本「泊原発の問題は何か」は著者らのサイン会が行われ100冊近くが売れました。(文責・樋口みな子)

(講演会の撮影・飯島秀明さん、油谷良清さん)



私は10年前まで、北海道にもハンセン病患者がいらしたことも知りませんでした。東北や遠く四国の隔離施設に収容されたことを知りました。青森の松丘保養園を訪れる機会があり、入所者の誇りを奪われた人生を聴かせていただきました。ほとんどが故郷に帰ることは叶わず、療養所で余生を送っています。何もしてあげられないけれどせめて入所者の応援者でありたいと思い、浅川さんと井上さんが「ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会」を立ち上げたときに会員になりました。丁度10年になります。今回、浅川さんのお誘いで参加し90歳を超える入所者が、「人間をかえせ、人間であって人間でない生活を強いられた。子どもも殺された(墮胎)。命の尊厳を求めてハンストします」と訴えたことに胸がえぐられました。これからの余生がせめて快適に生きられるように署名などで協力したいと思います。

ハンセン病療養所の実態を告発する市民集会に参加しました

「いまハンセン病療養所のいのちと向き合う! 実態を告発する市民集会」が11月5日にあり、東京に行ってきました。札幌からは、浅川身奈栄さん、増子捷二さん、私です。

主催は、ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会で全国の療養所関係者や、障害を抱えながら療養所で生活している人たち、支援者など480人が参加しました。



全療協の神(こう)美知宏会長が、13ヶ所の全療養所を訪れて調査した結果を報告。入所者は高齢化が進み、平均年齢は82歳。病気の後遺障害が進行しているにもかかわらず、行政改革で、職員的大幅削減が深刻になっていること。不自由になった入所者は、食事、入浴、排せつなどの介護が十分に受けられない状況や、誤嚥性肺炎が増えていて安心して生活できない状況を報告しました。

国は長年の強制隔離政策の過ちを認め、08年に制定されたハンセン病問題基本法で、医療、看護、介護などの充実に努力すると決めたのに、法律は形骸化し、人としての尊厳や命が脅かされていると告発しました。

里塚敬愛園(鹿児島県)の入所者、田中民市さん(94)、玉城シゲさん(94)、上野正子さん(86)が「生きていて良かったと思えるようにして欲しい。多くの方が私たちと一緒に闘って欲しい」と訴えました。ハンストも辞さない決意にもじませました。

徳田靖之弁護士から「文字どうり命を削るたたかいです。支援の輪を大きく広げてほしい」と呼びかけました。

集会では、国家公務員の定数削減の対象からハンセン病療養所を除外し、看護師、介護職員の大幅増員を図ることなどを求める決議を満場の拍手で採択しました。

今年最後の夏山登山 無意根山(1464m)



10月7日、快晴。今年も無意根山に登りました。メンバーは3人。

薄別コースの1時間の林道歩きを覚悟して、歩き出そうとした時、森林管理所の入林許可書を持っ

たカップルがいらして、ゲートを開けてくれたおかげで私達もふくむ3台の車が長い林道を通り。2つめのゲート前で駐車し、宝来小屋の登山口までは30分。アカエゾマツの樹林帯を進み大蛇ヶ原湿原に。昨夜から無意根尻小屋の清掃や冬支度で泊まっていた、北大山スキー部の学生が、次々と降りて来ました。昨年、木道用の板を2枚(40kg)を担いで登っていった学生を思いだし、「木道整備、ありがとう」と声をかけました。無意根尻小屋で学生さんが美味しいお水をご馳走してくれました。木道のおかげで、靴を汚さず、快適に登れました。

チシマザサの生い茂るテラスはきれいに笹刈りされて歩きすくなっていました。下の紅葉はまだ早

かったですが、高度が上がるにつれて赤と黄の紅葉が美しかったです。ハイマツの長いトンネルをくぐると3時間50分で頂上でした。

羊蹄山は8合目からは雲の中でしたが、反対側に札幌岳や狭薄山、恵庭岳、手稲山、神居岳など。はるか西方に、札幌市街が明るい日差しをうけていました。登りごたえのある山で、秋の一日を満喫しました。
タイム：駐車地点出発8:10 宝来小屋登山口8:40 大蛇ヶ原9:35 無意根小屋9:40 元山分岐11:20 無意根山頂上12:00 下山12:45 駐車地点15:45

アグルーカの行方

角幡唯介著 集英社 1800円+税

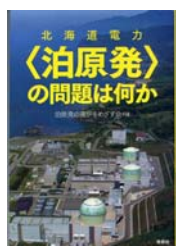
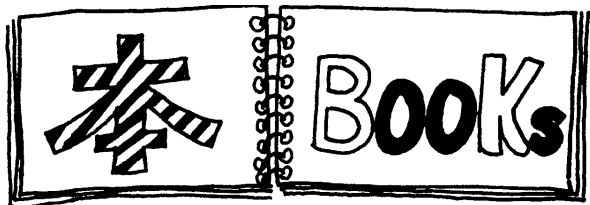
本書は19世紀に幻の北西航路を発見するために北極圏を冒険し、隊員129人全員が死亡したとされるフランクリン探検隊の軌跡を追ったノンフィクション。著者は世界最大のツアンボー峡谷に挑んで「空白の五マイル」を書き、大宅壮一賞を受賞した探検家です。

著者はフランクリン隊のルートを徒歩で踏破。160年前と現在が交錯し、そして最後には重なっていく様を描きます。その距離1600キロ。現代の旅には地図があります。使おうと思えば現在地を示すGPSもあるのですが、著者はそれでは冒険ではないとあえて困難を選び取ります。極地を旅する意義は「自然にいたぶられ、その過酷さにおののき、人間の存在の小ささと生きることの自分なりの意味を知ることにある」と書きます。今回は北極圏を何度も歩いている相棒も同行しています。物語は全滅したと言われる隊に、実はアグルーカと呼ばれる生き残りがいたという可能性をも追います。

食料などを載せた橇を氷上で引き、乱氷帯では橇ごと持ち上げて進まなくてはなりません。氷点下40度の厳しい寒さや、北極熊がテントの周りをうろつく恐怖との闘い。激しい飢餓にも襲われます。生きるために麝香牛（じゃこううし）を撃ち取り、解体して食して腹痛にも苦しみます。氷点下40度の環境では、毎日5000キロカロリーを摂取しても体内の脂肪が失せていくというのも驚きでした。著者は疲労から口唇ヘルペスを発症し腫れあがった唇から膿や血が流れ、それはそのままつららになるすさまじさ。命がけの探検であることがひしと伝わり圧巻。

そして物語は全滅したと言われる隊に、実はアグルーカと呼ばれる生き残りがいたという可能性をも追います。「アグルーカ」とは勇猛な探検家を先住民イヌイトが敬意を込めて呼んだ名。著者は文献を渉猟するうち「アグルーカ」と呼ばれた人物に率いられた一隊が、フランクリン隊全滅の地とされる「餓死の入江」を脱して歩き続けたという異説を知ります。その入江では隊員が人肉食にまで追い詰められた証拠もありました。しかし、そこからさらに旅を続けた者らがいたなら想像力がふくらみます。アグルーカが誰であったのかは謎に包まれています。著者は、その物語はなぜ語り続けられてきたのか、に注目するので。装備も食料も貧弱だった時代、探検に挑んだ人たち全てがアグルーカだと私は思ったし、その探検を現代に蘇らせた著者らもまた間違いなくアグルーカだと思います。

北極圏の厳しい自然が目につかぶようで、わくわくしながら読み終えました。



北海道電力 泊原発の問題は何か

泊原発の廃炉をめざす会編
寿郎社 1600円+税

3.11の福島原発の事故後、原発関係の本がたくさん出版されました。しかし泊原発に特化した本はとても少ない。

裁判では訴状に基づいて弁論しますが、そこで指摘している問題点を、よりわかりやすく平易なことばで伝えているのが本書です。廃炉の会の科学者や、弁護士、大学の名誉教授らが執筆。多くの人に泊原発の危険性を伝えたいという思いが伝わってきます。

「日本を変えるステージの始まり」「倫理から見た原発」「泊原発に迫る地震と津波の危険」「泊原発は構造的にどこが危険なのか」「フクシマで起きたことが泊で起こったら」「原発なしでも北海道はやっていける」「司法は福島事故に重い責任がある」の7章からなり、原発と向き合うそれぞれの現場からのコラムで、30年間も地元で泊原発に反対し続けてきた斉藤武一さんや福島から自主避難してきた穴戸隆子さんが、今の思いを率直に綴っています。

今までの歴史は、倫理観を欠いた企業と、官僚、国が一体になって公害を生み、多くの犠牲者を出してきました。倫理から見た原発にも多くの紙面を割いています。筆者は、3.11の事故を学ばず、子どもを犠牲にする国に健全な未来などあろうはずがないと断じています。

あらゆる方向から泊原発の問題点を明らかにしていて、私たちがどんな社会を望むのかを考える判断材料になると思います。

泊原発で事故があった時に西風が吹いたら北海道は全滅します！のシュミレーション図に衝撃を受けました。本書から泊原発を廃炉にする理論的裏付けに勇気もらいました。2次提訴集会で「節電に取り組み電気代の削減をして、原発のない将来を買おうと決意して子ども5人と一緒に原告になりました」と訴えた方がいます。電気が足りないから原発は必要だと考えている人にも是非読んで欲しい一冊です。



舟を編む

三浦しをん著 光文社 1500円+税

本書は何年もかけて辞典を編纂（へんさん）する編集者らの情熱を描く物語。書店員が選ぶ今年の本屋大賞を受賞しました。何より辞典作りの舞台裏が興味深かったです。

書店に行くたびに気にはなるのですが、天の邪鬼の私はブームが去って？から読みました。銀河通信を書き始めた頃から10年近くは手書きでした。辞書をいつも手元に置いて言葉の意味を引きながら書いていた頃を懐かしく思い出しました。

主人公の編集者、馬締光也（まじめ・みつや）に「言葉と一徹に向き合う堅い人」というイメージを膨らませていたという著者は、ある編集者取材した時、「趣味はありますか」と尋ねたそうです。「駅のホームにあふれた人がエスカレーターに整列して吸い込まれていくのを見るのが好きです」。主人公の趣味にそのまま採用されているのも面白い。

人とは違う視点で言葉を捉える馬締は、辞書編集部に迎えられます。新しい辞書『大渡海』を編む仲間として。定年間近のベテラン編集者、日本語研究に人生を捧げる老学者、徐々に辞書に愛情を持ち始めるチャラ男、そして出会った運命の女性。個性的な面々の中で、馬締は辞書の世界に没頭します。言葉という絆を得て、彼らの人生が優しく編み上げられいきます。しかし辞書を編むのは労力と時間、お金もかかります。果たして『大渡海』は完成するのか。

登場人物がみんな生き生きとして、言葉に魅せられた人たちの情熱に感動しました。何気なく引いていた辞書が完成されるまでの行程が手に取るように描かれ、改めて使い込んだ辞書がいとおしく思えました。

この本を読んで、汗水流して頂上にたった時の爽快感と、言葉の海を渡るイメージが重なりました。

高倉健インタビューズ

野地秩嘉著 1600円+税プレジデント社

私は、高倉健が若い頃からのファンです。演技が上手いとは思わないけれど、どんな役を演じて、健さんそのものの人間性が見えるような気がします。

本書は18年間、この希代の名優の発言を追った貴重なインタビュー集です。

健さんは、インタビューを受けないことでも有名です。背中に哀愁がある俳優だなあと映画を見るたびに思います。「セリフのうまい下手よりも大切なことがある」というなかで、こんな話をされています。「本当に嬉しい、もしくは悲しいと感じたとき、人は嬉しいとか悲しいなんて言葉を口にするのでしょうか。僕はしないと思う。声も出ないんじゃないか…。



セリフだけが表現じゃありません。僕は大上段に振りかぶって、やたらと大声を出す映画には本当の力はないと思う。思っていることを低い調子でそっと伝える映画に出たい」。

映画での健さんの少ないセリフから、私を感じるの正直さ、温かさです。妻、江利チエミさんとのエピソードが胸を打ちました。「結婚した頃の頃、生まれてはじめて買った新車が届いた夜のこと。あいつを乗せて走ったんです。そしたら途中でおろしてくれって言うんです。あなたが走るところが見たいからって。ほくがやつ目の前をいったり来たり走るんです。そしたらあいつ拍手してくれるんですよ。かっこいいよ！って。可愛いなあと思いました。この女のためなら、何でもできるなあ」と。著者は、まるで映画のワンシーンのような実話で、カッコつけない真心の例とはこういうものだ。と書いています。

先日、健さんの久しぶりの映画「あなたへ」を観ました。いつもの健さんでした。自らの生き方を貫いて、自分らしくふるまえる作品にもっと出会って欲しいです。



天地明察 上下

沖方丁著 角川文庫 上下525円+税

江戸時代、日本独自の暦を作り上げた渋川春海の物語です。

本業の囲碁よりも算術に夢中で老中に選ばれ、日本各地の緯度を計測する旅に出た春海は、800年以上にわたって用いられてきた当時の暦に誤差があることを知り、新しい暦を作り上げていきます。

21歳の青年が、算術家の関孝和の見事な回答に刺激を受けたり、春海を中心に天文観測チームが作られたりと、武士中心から民の生活中心へと変わっていく時代の空気を、躍動感あふれる文章で描きます。武力ではなく、学術によって国を発展させようとする為政者の存在も、春海を支えています。時の権力者の保科正之や水戸光国などが中心となり「改暦」に向けて準備を進め、その役目を若い渋川春海に任せようとしたのです。当時の文化水準の高さに目を見張りました。

天に触れようと長い年月を掛けて取り組む春海を支える人たちの存在も大きい。春海はいい時代に生まれたなと思います。新時代を切り開こうとする民衆のエネルギーが、春海の才能を開花させたことに感動を覚えました。

星好きの夫と映画も見ましたが、当時の天体望遠鏡も興味深く、天文少年が増えるかも知れなく楽しかったです。「明察」という言葉が、しばらく我が家の流行り言葉になりました。

若い感覚の時代小説で、言葉も現代的でとても面白かったです。



原発を拒み続けた 和歌山の記録

汐見文隆監修 脱原発わかやま編集
委員会 寿郎社 1500円+税

関西電力の原発は福井県の日本海沿岸に集中し、太平洋側の紀伊半島には一つもない。本書はその理由に迫ります。

関電が仕掛けた攻勢は他の電力会社と同様すさまじかったことも書かれていて、首長はすぐ国策容認に傾いたのは和歌山も他県と同じでした。どの候補地でも何度となく容認か、との局面に立たされながらも、反原発の20年を超える粘り強い住民の闘いがありました。候補地となったのは和歌山県の4町にある5ヶ所です。本書では「和歌山に原発がやってくる」「5カ所の原発計画と反対運動」「学び、伝え、つながった住民たち」「和歌山の女たち」「反対運動をどう闘ってきたか」などのテーマで住民の反対運動をつづっています。

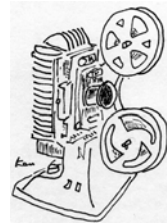
反原発の運動は漁師、女性、漁協が主体で、それを支える複数の理論家たちがいて、学習会を何度も繰り返しました。和歌山のごく近くの熊取に京大原子炉実験所があり、あの小出先生らの「熊取6人衆」が手弁当同然で、支援してくれたことも大きかったとあります。学びは力ですね。漁師は漁業組合の総会で反対を貫きます。総会会場前で座り込みを続けた女性たちがいました。市井の学者、宇治田一也さんの理論的裏づけ。医師の立場から公害問題に取り組み、勉強会を続けた人たち。一人一人の個性を生かした必死の思いが胸に迫ります。20年も前に、横のつながりを大事にしながら運動した人たちが存在したことに励まされました。

当時は反原発という人はまだまだ少数派でした。そういう状況で、和歌山県が 原発を許さなかったというのが素晴らしい。あとがきに、一貫して掲げられた言葉は「いのちの大切さ」であった。いのちの源である、海、山、川を守ろう。それを子や孫に残そう。とあります。こういう実践を知ることは、自分たちの運動を客観的に考える機会になると思います。豊かな漁場を守りきった人たちの誇りが輝いています。



ソハの地下水道

独・ポーランド アグニエシュカ・
ホランド監督



「地下水道」といえば、アンジェイ・ワイダ監督の映画を思い出します。ワルシャワ蜂起で多くの犠牲者を出しながら、地

下水道に逃げ込んだレジスタンスたちの青春を描いた傑作です。

ナチス占領下のポーランド。ソハは下水道の修理工だが、暮らしはきびしい。ドイツ軍が占領していたルヴフは、ユダヤ人を隔離して居住させるゲットーがある町で、ソハは若い同僚と、泥棒稼業に精を出しています。たまたま、下水道にいたときに、ユダヤ人たちと出くわします。ユダヤ人たちは、強制収容所行きを逃れようと、家の床をくり貫いて、地下に穴を掘っていたのです。通報すれば報奨金がもらえますが、ソハは、ユダヤ人たちを匿い、口止め料を生活の足しにしようと思いつきます。ユダヤ人たちの資金が尽きたら、ソハは危険な仕事から手を引くことにしていましたが、匿っているうちに彼らとの間に人間的な絆が生まれます。実話を元に制作された映画です。

ポーランドの女性監督のホランドは、ソハが人間として成長し、変わっていったことに惹かれたといえます。

悪臭とドブネズミが走り回る、耐え難い地下生活で、ユダヤ人の中でも争いが起きます。過酷な状況の中での出産シーンも描かれます。後半は下水道を逃げるユダヤ人たちと追う側との攻防に、ソハは命がけて彼らを守り抜きます。

ソハという人間そのものや、ユダヤ人たちの群像を、女性らしく細やかに描き、秀逸。ユダヤ人たちも必死に生き抜こうと、劣悪な下水道で耐える姿に、ソハの気持ちが変化していくのです。

11人のうち、唯一生存している女性が、当時の状況そのものが映像化されていると証言したそうです。

ホランド監督が来日した時のインタビューで、ポーランドが歴史の真実、もっとも触れたくない過去と切実に向き合うようになったのは、この10~15年、共産主義が崩壊しソ連がなくなり、ポーランドが本当に自由になってからのことと話しています。そのことによって、若い人たちの意識は確実に変わってきていると言うのです。ドイツ映画もさまざまな角度から、ナチがした犯罪を検証しています。日本はいつになったら、戦時中に行った蛮行を検証するのだろうかと思いましたが。最近観たお勧め一番の映画でした。

あの日 あの時 愛の記憶

ドイツ・ アンナ・ ジャスティス監督



第二次大戦中のアウシュビッツ収容所から脱走して生き別れ、32年後に再会を果たした実在の恋人たちをモデルとしたラブストーリー。1944年の波乱の脱走劇と1976年からの回顧を交錯させながら綴っています。

強制収容所で出会ったハンナとトマシュは恋に落ち命がけて収容所を脱走しますが、その後の混乱の中で離れ離れになってしまいます。ハンナはユダヤ人。トマシュは地下活動家でした。それから30年以上が過ぎた76年、ニューヨークで夫と娘と幸せな生活を送っていたハンナは、ある日、テレビに映っているトマシュの姿を目撃します。ハンナは命の恩人が生きていたことに心揺さぶられ、トマシュを探し始めます。

いつ殺されるか分からない極限下にも、愛を貫こうとしたハンナの勇気と、危険を冒しながら、逃避行する緊迫感が目に焼き付きました。

トマシュへの気持ちの揺れを心に秘めての静謐なラストシーンが忘れがたい。言葉を越えた感情が交錯する美しい場面でした。

天地明察

滝田洋二郎監督



江戸時代の改暦を描いた「天地明察」を映画化。

安井算哲（後の渋川春海）が、幾度もの失敗、挫折につまづきながらも、様々な人々と出会い、支

えられ、導かれながら、決してあきらめずにひたむきに夢を追いつける姿を、日本を縦断するダイナミックな天体観測、幕府と朝廷の権力争いなどのドラマティックな人間模様を背景に描きだします。

映画では、ほとんど現存していない江戸時代の天文観測器具を、資料を元に復元。資料の残っていないものは、時代考証を基に創造し制作するなど、知られざる江戸の天文観測の様子が描かれて必見の価値がありました。また星の動きを逆算して、シーン毎にその年

代に合った星空が正確に再現されており、現代の星空だけでなく、算哲が見ていたのと同じ江戸の星空を再現していたのも見応えがありました。全国を旅して、天体観測したシーンが、一番楽しい場面です。

天と地の真理を追い求め、日食が起こる日も言い当てた安井算哲。あきらめずに真理を追究したまっすぐな生き方に私も背筋が伸びました。

小説ではさりりとしか描かれないえん（宮崎あおい）との出会いと、生涯を支え合った夫婦の絆もとても良かったです。凛としたえんを演じた宮崎あおいがはまり役でした。当時の数学や、天文学への関心の深さにも驚きました。原作の若々しさが映画にも反映されていました。算哲役は向井理なら良かったと思うのは私だけかしら？

星好きの夫と観ました。しばらく、ご明察！が我が家の流行語になったのはおまけです。

最強のふたり フランス

監督・エリック・トレダノ&オリヴィエ・ナカシュ



パラグライダーの事故で、首からつま先までが全身麻痺となった富豪の男フィリップとたまたま介護人に採用された黒人青年ドリスとの交流を、ユーモラスに描きます。

フィリップはインテリで教養豊か。ドリスは経済的には恵まれていないが、陽気で屈託がない。介護が始まれば、生まれも育ちも違うふたりは、チグハグな会話やケンカもします。いつしか、切っても切れない仲になっていきます。

フィリップの誕生日を祝うコンサートのシーンが楽しい。クラシックしか聴いたことがないフィリップに、ラップやロックを教えるのです。新しい世界を獲得し、癒されていく。ドリスもフィリップによって、いつの間にか、見事な教養を身に付けていきます。社会的立場も音楽の趣味も正反対なふたりが互いを面白がる掛け合いはひたすら面白く、痛快です。偽善の匂いも、居心地の悪さもまるでない。ただふたりが世界を広げ、共鳴を深めていく過程がうれしくて、一緒に笑いながら、こんな風に障害者も健常者も対等につきあえたらいいのになと思う。

ふたりはまさに最強のコンビ。洗練と粗野が遭遇し、ふたりの心が次第に寄り添っていく。その過程を、笑いに包みながら、積み上げていきます。最後に二人がかりで空を駆けるシーン。私も開放感に酔いました。

障害者を同情もしない、遠慮もしない関係って難しいですが、ドリスのような人が、介護の世界を変えてくれるのかもしれない。私の心も晴れ晴れしました。

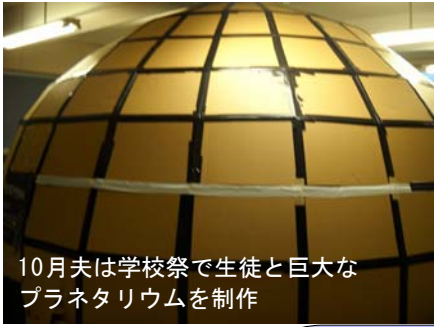
夫がショートステイを利用しています。お弁当を持って、夫の胃ろうを（昼、夜）手伝っています。家に戻ったら、胃ろうの容器を洗ったり、着替えしたり、夜中の尿とりパッドを交換したりと目をまわす暇ありません。もう少しがんばれる意気込みを持っています。（Y.Tさん）ご自身のお体もいたわって下さいね（み）

山のこと、自然のこと、本や映画、原発のこと、パラエティに飛んだ内容で感心するばかりです。銀河通信が本になればいいのにな～と思っています。（M.Wさん）

自然保護への想い、山に憧れ山を愛する者の一人として、貴方の寸暇を惜しんでの活躍が羨ましさや尊敬の気持ちが入り交じって伝わってきます。最近では、反原発への取り組みも自然体で貴方らしさを感じます。映画に書評にと、とりわけ書評は私もとても参考にさせていただき、触発されて読ませていただいているのも少なくありません。（H.Mさん）

盛りだくさんの内容を通信にするのにはとても時間もかかり大変でしたね。お陰様で多方面の知識を得ることができました。大飯原発の再稼働ほんとうに許せません。まもなく25周年とか！営々と続けられたことに頭が下がりました。またの通信を楽しみにしております。（T.Wさん）

どの記事も興味深かったのですが学生時代は、私も山に登っていたので、登山の記事は特に懐かしさもあり、羨ましく読みました。映画も、私がシアターキノでチェックしていて、見に行けなかったものなので、とてもよかったです。それから、本も読みたくなりました。これから少しずつ読むのが楽しみです。（K.Yさん）



10月夫は学校祭で生徒と巨大なプラネタリウムを制作

大飯原発は隣県。今日再稼動しました。一抹の不安があります。（Y.Oさん）



2012, 1, 5

冬山の季節が来ました！

富川の水害訴訟（沙流川・二風谷ダム）で控訴審で被災住民が勝利し、開発局は上告を断念しました。完璧な勝利です。その大雨のとき、私も市川も富川にいてあふれるばかりの沙流川を命がけで撮影し、その後の裁判もずっと関わってきたので、本当にうれしいのです。（T.I）
小さい頃、沙流川で遊びましたよ。（み）



読者の

ひろば

フットワークの軽さ、視野の広さを知り、また、樋口さんの人となりに触れることが出来改めて嬉しく存じます。吉岡しげ美さんの弾き語りは、以前読んだ吉武輝子の対話集で知ってから、一度聴いてみたいと思いつつまだ実現していません。しなやかでしたたかに生きた女性たちを見習って、私も残りの人生を生きたいと思っているのですが…。これからも銀河通信を楽しみにしています。（M.Cさん）

私の好きな世界観に満ちた通信でしたので、心の中が幸せな思いでいっぱいになりました。この通信の記事の中に、いつも私が心に大切にしているものが、あちらこちらにキーポイントのように散りばめられているのです。メールで拝見しましたら、まあ、なんと美しい紙面でしょう！感激しました。思いがけない、すてきな出会いに感謝しております。（Y.Mさん）
タイトルイラストは友人の住田真樹子さんです。長い読者にはお伝えしていましたがHP開設しましたのでお名前を入れたいと思います。（み）



雪帽子をかぶったモミの木とバードテーブル

購読料をありがとうございます（敬称略）
2012.9.20～11.25

土岐政美（札幌市）カンパ含む 村上カ（釜石市）カンパ含む 常田益代（札幌市）和田マサコ（豊浦市）切手 新井喜美子（北広島市）三島春光（札幌市）切手も 助田梨枝子（芽室町）カンパも含む 梅沢俊（札幌市）カレンダーも いがらしのりこ（旭川市）カンパも含む 久能由弥（江別市）カンパも含む 川嶋新太郎（東京台東区）カレンダー計 25,000円と切手20枚は印刷と送料に使わせていただきます。また植物写真家の梅沢俊さんと山岳写真家の川嶋新太郎さんからはステキなカレンダーを頂きました。合わせてありがとうございます。今年最後の通信になりました。来年がみなさまにとって幸多い年でありますよう祈念しています。引き続きのご愛読もよろしくお願い致します。（み）